

限りの資源「水」

富士市内中学校

西尾 さん

七月十二日の朝、家の中が騒がしくて目が覚めた。

「どうしたの?」

と聞くと、

「水が出ないんだよ。」

と先に起きていた弟が言った。

母はラインで町内の人と連絡を取っていたのか、スマホが鳴りっぱなし、祖父は心配して早朝から近所の人に聞いてまわっていた。父は、

「コンビニ行くぞ。」

と私をさそった。少し離れたコンビニに着くと、

「ほら、トイレ行くよ。」

と言われた。そうか、水が出ないとトイレもできないんだ。言われるまで私は気がつかなかった。その日、学校に行くと断水の話でもちきりだった。どうやら、同じ学区でも水が出ている家と、出していない家があるらしい。何でだろう…と考えながら帰宅した。

「簡易水道のポンプが壊れたんだって。」

帰ってすぐに母が教えてくれた。しかも、修理するのに次の日の夜ま

でかかると…。夕方には、近くの公園に給水車が来てくれた。みんな、空いたペットボトルや、バケツ、給水タンクに水をくみに来ていた。

私も公園と家を二往復し、重い水を運んだ。それでも、お皿を洗うのに使って、トイレを二、三回流すのに使ったら、ほとんどなくなってしまった。困ってしまい、その日は母の実家でお風呂に入り、夕食を食べさせてもらった。銭湯に行ったり、外食したりした人も多かったらしい。次の日の朝も、コンビニで飲み物や朝ごはんのパンを買い、トイレを借りた。洗濯もできない、土曜日なのに上履きも洗えない。

歯みがきや洗顔の水は、前日の給水車からもらった水ですませた。昼食はラーメン屋で、夕食は買ってきたお弁当を食べた。夜八時過ぎ、水道をひねってみると、チョロチョロと水が出た。でもまだいつもの勢いがなかった。それでもうれしくてすぐにシャワーを浴びた。その日は地域のお祭りでおみこしを担ぎ汗だったので、チョロチョロと流れるシャワーでも、とても気持ち良かった。

この約四〇時間の断水で学んだ事、感じた事は沢山ある。まず、地震などの災害がなくても水が出なくなることがあるということ。蛇口をひねれば必ず出てくるもの…そう思っていて、まさか水が出なくなる日が来るなんて本当に驚いた。普段の生活の中で毎日どれくらいの水を使っているのだろう。気になって調べてみた。毎日必ず使用するトイレは、一回流すのに六リットルほど水を使用する。歯みがきの

時なぜか出っぱなしにしてしまう水は、たった三十秒で約六しも流してしまっている。シャワーも十五分間使うと、浴槽一杯分ほどのお湯を使用しているのだ。

飲めるほどきれいな水を捨てているなんてもったいない。そう思うようになったのは断水を経験したおかげだ。世界には、安全な水が利用できない人が六億六千三百万人もいて、トイレを利用できない人は二十四億人もいる。水道や、整備された井戸がない国の人々は、遠くにある川や池に水をくみに行っている。私は今回の断水で近所の公園に二回水をくみに行っただけでヘトヘトだった。こんなことを毎日やらなければいけない地域があるなんて信じられなかった。しかも、川や池の水はきれいではないので飲み水に使うと病気になってしまう。それが原因で、年間三十万人、一日に約八百人以上の五歳未満の子供が死亡しているという。私は心が痛んだ。私達が気づかずに流し、捨ててしまっている大量の水が、水道のない国の人々にプレゼントできたらいいのに、と思った。

なぜ水が足りなくなってしまうのかを考えた。原因の一つは人口の増加だと思う。人が増えれば単純に水を使う量も増える。もう一つの原因は気候だ。雨が降らないと干ばつになってしまう。一人一人が節水を心がければ環境のためになるのではないか。きっと、川や池に水をくみに行っている国の人達は、日々使い過ぎないようにしているに

ちがない。だって使ってしまったら、また遠くに水をくみに行かなければならないから。それに比べて日本は、蛇口をひねればいつでもきれいな水が出てくる。そんな環境で育った私達に、節水は考えにくい事なのかもしれない。私もつい最近まで、節水しようなんて思ってもいなかった。環境のために私ができること、それはささいなことかもしれないけど、これからは考えて行動しようと思った。